



「わった～バス大実験」結果(速報) ～1 人ひとりの少しの工夫で渋滞をなくそう～

沖縄県では移動手段の約 9 割が自家用車に依存しており、県民意識をマイカー利用から公共交通機関利用へ変えるべく、平成 29 年度に引き続き今年度も「わった～バス大実験」を実施しました。

今回は、実験期間及び規模を拡大し呼びかけを行ったところ、118 団体、2,476 人のご協力を頂きました。

本実験の結果については現在詳細な分析を進めているところですが、今回は速報値としてとりまとめたアンケート調査結果をご報告します。

実験の結果、以下のような効果が確認できました。

- ・アンケートの結果、今回取り組んだ通勤手段を「継続したい」「検討したい」が約 7 割
- ・継続したい理由は、「時間が有効に使える」「ストレスが無くなる」など
- ・時差出勤実施の約 7 割が出勤時間短縮

※詳細な分析・検証を引き続き行い、とりまとめが終わり次第公表する予定です。

【問い合わせ先】

内閣府 沖縄総合事務局 TEL098-866-0031(代)

開発建設部 道路建設課

課長	おおしろ てるひこ 大城 照彦	(内:4211)
課長補佐	こめす としひこ 米須 俊彦	(内:4216)

ホームページ:<http://www.dc.ogb.go.jp/kaiken/>

わった～バス大実験結果 (速報)

～1人ひとりの少しの工夫で渋滞をなくそう～

沖縄総合事務局
平成31年2月21日

○実験期間:平成30年10月15日(月)～10月31日(水)17日間
※昨年度の実験より、期間、規模を拡大

○参加企業数:118団体

○実験参加人数:2,476人

○参加者にアンケート調査を実施

アンケート回収数:1,959票

アンケート回収率:79%

○ビッグデータを用いて、渋滞長、交通量の変化を分析中

※平成29年度実施内容

○実験期間:平成29年9月16日(土)～
9月22日(金)7日間

○参加企業数:162団体

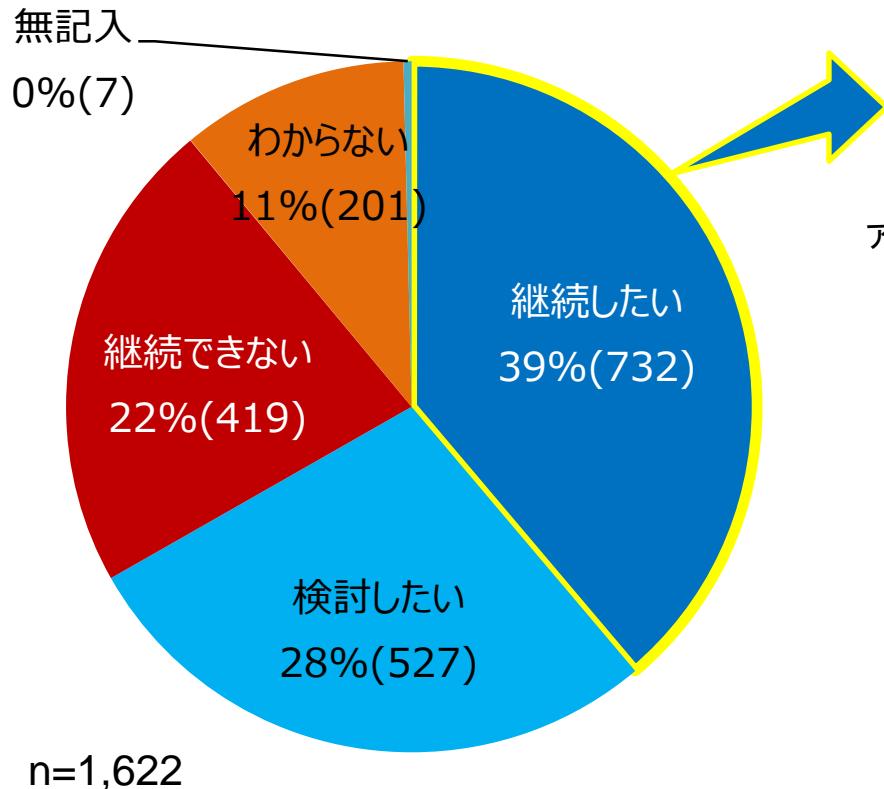
○実験参加人数:1,917人

○アンケート回収数:1,688票

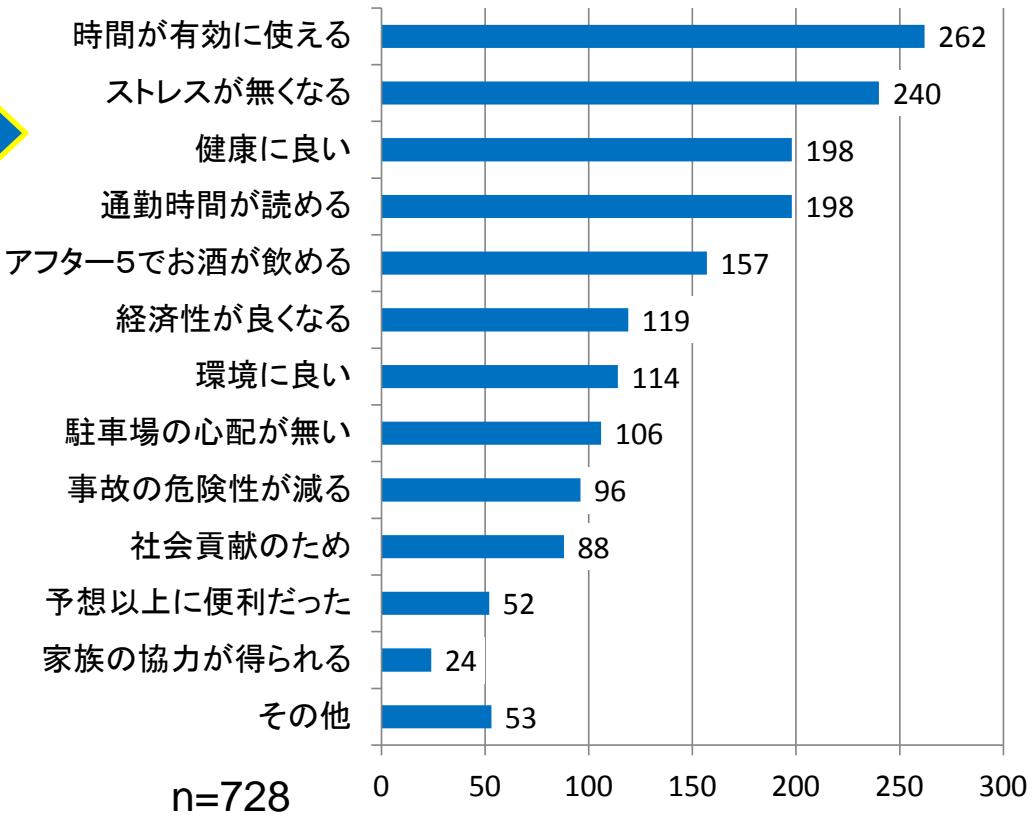
○アンケート回収率:88%

アンケート集計結果①

- 実験中に取り組んだ通勤手段について、今後も「継続したい」が約4割、「検討したい」が約3割、「継続できない」が約2割の回答
- 継続したい理由は、「時間が有効に使える」「ストレスが無くなる」「健康に良い」「通勤時間が読める」などの回答が多い



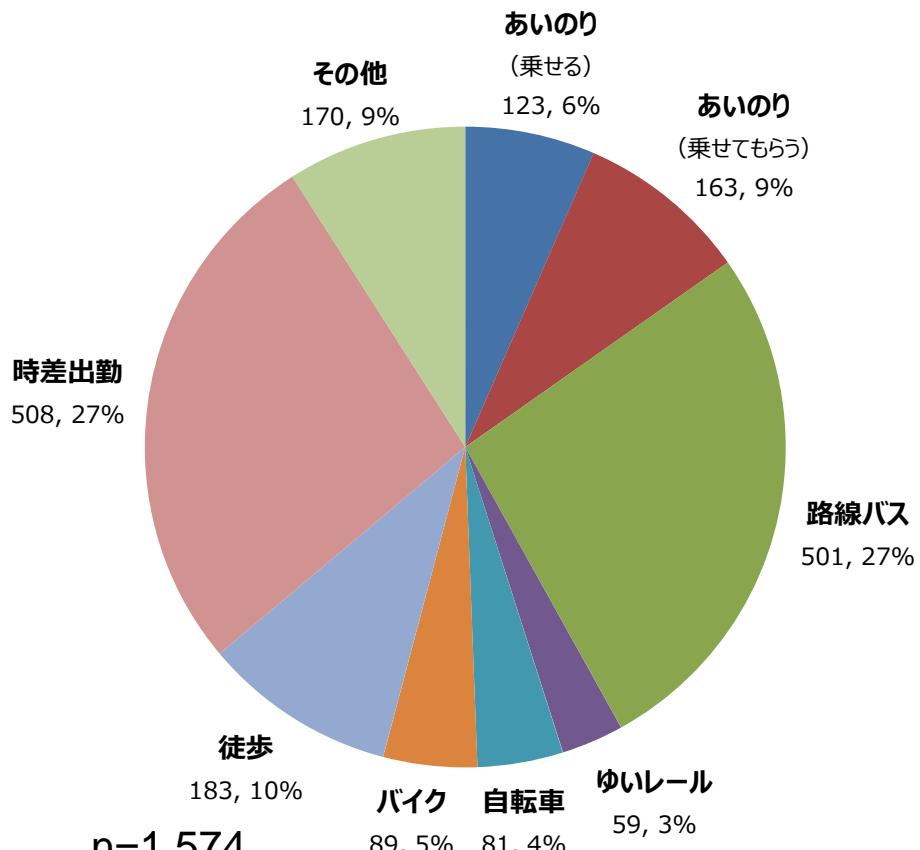
▲取組んだ通勤方法の継続意志
(複数取組、複数回答可)



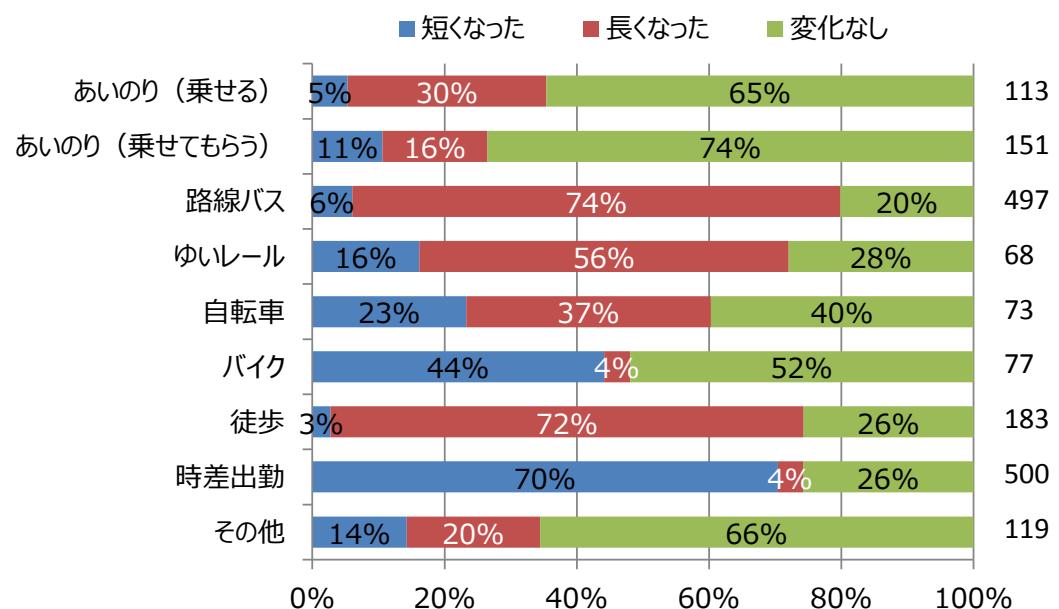
▲継続したい主な理由(複数回答)

- 実験期間中に取り組んだ通勤手段で割合の高いのは、時差出勤(約3割)、路線バス(約3割)
- 通勤所要時間が短くなったと回答した割合の高い通勤手段は、時差出勤(約7割)、バイク(約4割)
- 通勤所要時間が長くなったと回答した割合の高い通勤手段は、路線バス、徒步(約7割)

実験期間中に取り組んだ通勤手段



通勤所要時間の変化

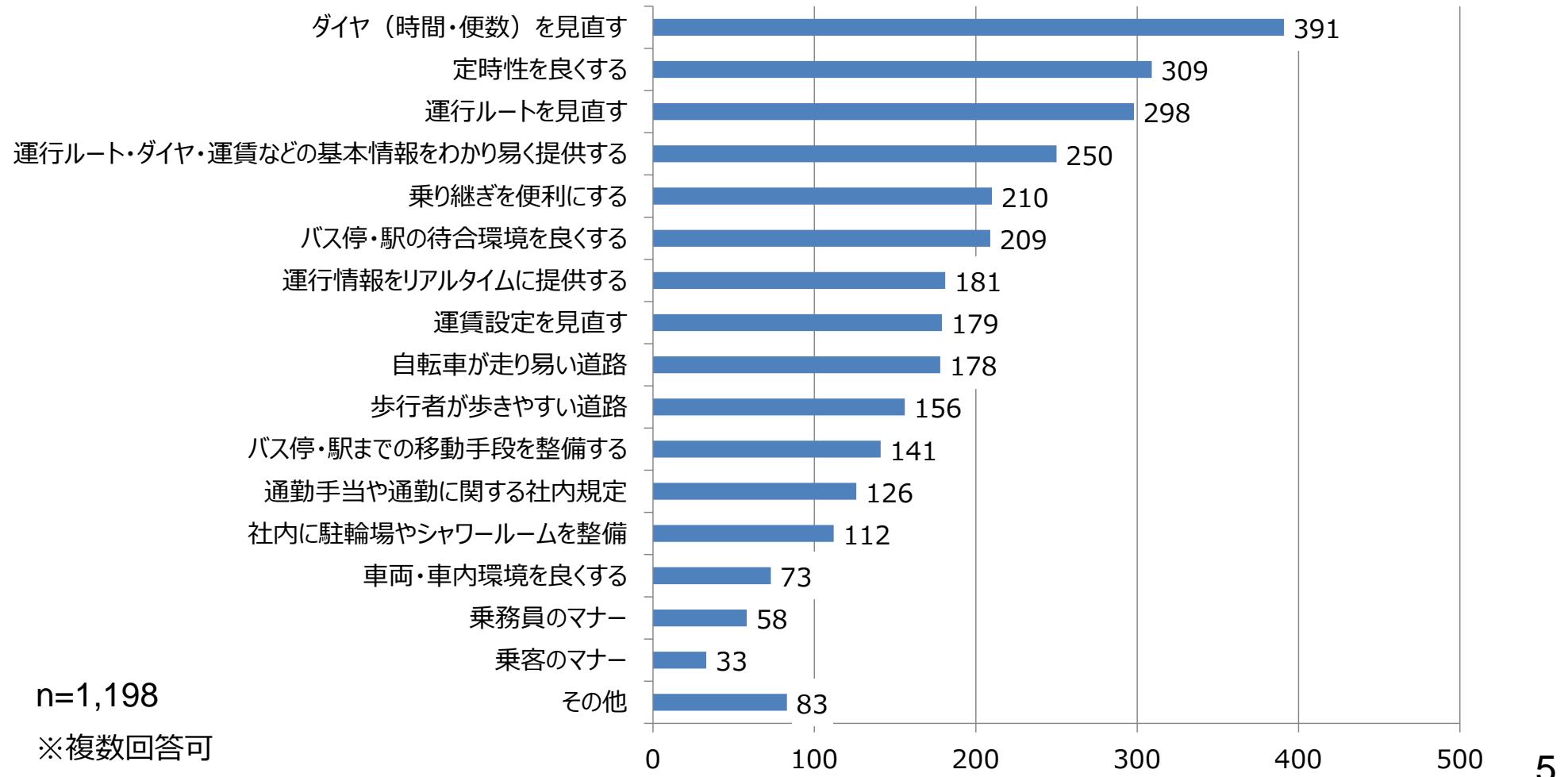


n=1,510

※複数回答可

- 改善して欲しい内容としては「ダイヤ(時間・便数)を見直す」「定時性を良くする」「運行ルートを見直す」などの意見があった

改善要望



- わった～バス大実験は、実験期間中に参加頂いた企業や事業所等の皆様に、ノーマイカー通勤や時差出勤などに取組んで頂くことで「かしこいクルマの使い方」について考えて頂くとともに、道路渋滞の減少効果について検証を行うものです。

わった～ バス大実験

一人ひとりの少しの工夫で渋滞をなくそう！！

実験期間：平成30年10月15日～10月31日

取組内容の例

- OK 読書しながらバス・モノレール通勤
- OK ラジオ体操に出かけるつもりで早朝出勤(早出)
- OK たまにはやってみたい重役出勤(遅出)
- OK 通勤途中に住む同僚をお迎えするあいのり通勤
- OK 自宅で眠っている自転車を使った通勤
- OK 職場の飲み会に併せてみんな揃ってバス・モノレール通勤 などなど

参加事業所
募集中!!

■実験の流れ

1. 参加呼びかけ

わった～バス党
党員、サポーター等

従業員数が
多い企業

各商工会議所、
関係市町村、大学 等

2. 参加企業(参加者)による取組み

- 参加企業の社員に、渋滞解消に向けた目標を決めてもらう
- 参加者は特定の期間(10月15日(月)～31日(水))に、目標に沿った行動を心がける

目標の例) ・マイカー通勤をバス通勤にする

・渋滞の時間を避けて出勤する(時差出勤)

3. 結果のとりまとめ

参加企業(参加者)に対し
てアンケート調査を実施し、
実施結果や課題を把握

ビッグデータ(交通量、速度)
等を用いて削減効果や今後
の対策について分析

「追跡調査」により実験後の取組状況等を分析